

『スタンダード 工学系のベクトル解析』 (2014年12月1日第1刷発行) 訂正表

ページ	位置	第1刷の記述	訂正
4	1.3節の2行目	ベクトル \mathbf{a} の大きさは絶対値の記号を用いて $ \mathbf{a} $ で表す。	ベクトル \mathbf{a} , \overline{AB} の大きさは絶対値の記号を用いて $ \mathbf{a} $, $ \overline{AB} $ で表す。
	最終行	これを零ベクトル(ゼロベクトル)といい $\mathbf{0}$ で表す。	これを零ベクトル(ゼロベクトル)といい $\mathbf{0}$ で表す。この零ベクトルは方向をもたない。
6	本文2行目	負の値との和を考えればよい。	負の値との和を考えればよい。
9	下から3行目	座標情報を用いて	座標情報を用いた
22	4.1節の5行目	成分を用いて	成分を要素にもつ行列式を用いて
47	例題7.3答(2)の式2行目	$= (\nabla(x^2 + y^2 + z^2)) \times \mathbf{A}$	$= (\nabla(x^2 + y^2 + z^2)) \times \mathbf{A} + \mathbf{0}$
48	問題7.3(3)	$\nabla \times (\log r) \mathbf{C}$	$\nabla \times \{(\log r) \mathbf{C}\}$
60	9.3節の6行目	線分 Δs とすると、	線分の極限を ds とすると、
	上記に続く式	$\sum \Delta s = \int ds$	$s = \sum \Delta s = \int ds$
92	問題14.1(4)最終行	$\int_S \frac{\mathbf{p}}{ \mathbf{p} ^3} \cdot d\mathbf{S} = 4\pi$	$\int_S \frac{\mathbf{p}}{ \mathbf{p} ^3} \cdot \mathbf{n} dS = 4\pi$
102	問題14.1(4)最終行	$\int_S \frac{\mathbf{p}}{ \mathbf{p} ^3} \cdot d\mathbf{S} = 4\pi.$	$\int_S \frac{\mathbf{p}}{ \mathbf{p} ^3} \cdot \mathbf{n} dS = 4\pi.$
	問題15.1(2)最終行	$\oint_C (\nabla \psi) \cdot d\mathbf{p} = 0.$	$\oint_C (\nabla \mathbf{p}) \cdot d\mathbf{p} = 0.$

ご迷惑をおかけして申し訳ございません。上記訂正をお願いいたします。
書籍の内容およびこの訂正表に関するお問い合わせは株式会社サイエンティフィック (03-3235-3701) をお願いいたします。